

2021年9月10日に行われたSFAとISE FOODS HOLDINGSのMOU調印式におけるイセ・フーズ・ホールディングスのCEO、吉川月乃氏のスピーチ(英文和訳)

ただいま、ご紹介にあずかりました吉川月乃でございます。

大変僣越ながら、ISE FOODS Group を代表いたしまして、第4番目となる養鶏場の土地および運営ライセンスにおける、本日の調印式にあたりまして、一言、御礼の御挨拶を申し上げたいと存じます。

まずは、本日、皆様におかれましては、大変御忙しい中、この調印式に御出席をいただきましたこと、心からの感謝と御礼を申し上げたいと思います。

また、ご来賓として

グレイス・フー 持続可能性・環境大臣

山崎純 駐シンガポール日本国特命全権大使

エス・チャンドラ・ダス大使(イセ・フーズ・ホールディングス取締役)

リム・コク・タイ シンガポール食品庁最高経営責任者

に深く感謝を申し上げますと共に、本プロジェクトをリードしてくださいました、SFA の皆様、多大なるサポートを頂戴しました、ISE FOODS HOLDINGS の株主であります、VERTEX の皆様、本調印式のためにご足労頂きました、報道関係者の皆様に、ここからの御礼を申し上げる次第でございます。

2019年より、我々の新しい試みとして、シンガポールにおける4番目となる農場のプロジェクトがスタートいたしました。

このプロジェクトは、シンガポールの国家目標「30by30」を軸とし、「食の安全保障」として、インテグレーションシステムの導入が予定されています。将来的には、動物や人の健康にも配慮された穀物の生産までを視野にいれております。

また、AI、IoT などにおきましては、シンガポールおよび日本における様々な研究機関と協力し、労働環境の改善と感染症対策の強化、そして動物愛護の観点から、様々な技術の導入による世界でも類例(るいれい)のない農場を目指しております。

このライセンスの取得までの道のりは、決して容易ではありませんでした。

その中で、パンデミックという、誰もが見験のなかった異例の中、多くの問題に立ち向かい、常に前を向いて進む、とても強い信念をもったこのシンガポール国家の姿は、私達により一層の勇気と希望を与えてくれたと感じております。

このニューノーマルという新世界は、全ての国々、そして我々ひとりひとりの生活や食事情にも大きな影響を与えました。

しかしながら、我々人間は、どのような状況にあっても、誰しものが子供たちのために、出来る限りの素晴らしい環境を望んでいます。家族や愛する人のための安全を、自分自身のための良い環境や、やりがいのある仕事を望んでいます。

そんな皆様の思いに対し、我々イセグループは、企業理念や事業コンセプトを通して、なにかひとつでも、皆様に、そしてこの世界に、貢献ができていますでしょうか？

今、まさにスタートしようとしている「イセグループの新たなるはじまり」とも言えるこのシンガポールプロジェクトは、100年という歴史を紡いだ多くのスタッフと関係者の皆様への感謝の気持ちと共に、今一度初心にもどり、今だからこそ我々ができることを、今だからこそ我々がすべきことを、あらためて認識させてくれる大きなチャンスであると考えております。

ひとりでも多くの国民の皆様の、健康で生き生きとした日々をサポートできますよう、そして、仲間たちの夢を着実に実現できますよう、「あきらめない心」と「寄り添う気持ち」をモットーに、一同頑張っ参りたい所存でございます。何卒皆様のご支援のほど、こころよりよろしくお願ひ申し上げます。

改めまして、本日ご来場頂きました皆様に、心からの御礼を申し上げますと共に、この場をお借りしまして、このプロジェクトや本日のイベントのために、多大なるサポートをしてくださった皆様と、我々の会長である伊勢彦信氏の多大なるサポートに感謝するとともに、いつも隣で応援をしてくれている愛しい我が娘にも、心からの感謝を送り、ご挨拶とさせて頂きたいと思ひます。

皆様ご清聴、ありがとうございました。